

RUBeC 演習

村上 太一

Taichi MURAKAMI

環境ソリューション工学専攻修士課程 2年

1. はじめに

私は2023年8月20日～9月4日の間、RUBeC演習に参加した。午前中はアメリカ カリフォルニア州バークレーにあるLSI Berkeley (English Language School) で授業を受け、午後には浄土真宗センターに移動し宿題や発表練習などを行った。授業以外のプログラムではカリフォルニア大学バークレー校見学やワイナリーツアーが開催された。RUBeC演習期間中は現地の方のお宅でホームステイをし、アメリカの文化や食事など様々な経験を得た。

2. 参加目的

RUBeC演習に参加した目的は、2023年9月11日に開催される国際学会の「残留性有機汚染物質に関する国際シンポジウム (DIOXIN2023)」で発表予定であったためである。これらの発表はすべて英語であり、この練習としてリスニングやスピーキング能力を伸ばしたという思いでRUBeC演習に参加した。また本記事は学会後に執筆しているが、本演習は英語力向上に多少なりとも効果があったと感じている。

3. 授業

午前中の授業は主にテクニカルライティングとプレゼンテーションを中心に合計約3時間受けた。これら授業はすべて英語で行われた。午後に宿題を行う浄土真宗センターはLSIから約10分歩いた場所に位置する。

3.1 テクニカルライティング

最初の1週間はテクニカルライティングの授業を

行い、付加疑問文や関係代名詞についてより詳しく学んだ。龍谷大生以外にも、他の国から来ていた4人の生徒と一緒に授業を受けた。授業は会話主体で行われ、問題集を解くときにはそれぞれ順番に回答していく形式であった。文法の他にもCDによるリスニング練習の時間が設けられた。これら授業の宿題はだされることはなく、各自でその日の復習を少しする程度であった。

3.2 プレゼンテーション

2週目は研究に関するアブストラクトやプレゼンテーションについて学んだ。アブストラクトは実際の論文に適した文字数で作る練習を行った。プレゼンテーションではイントネーションに強弱をつけることや、聴衆に対するアイコンタクトが大事と教わった。発表スライドや原稿、発音といった細部まで修正をいただき、最後の日は実際に約5分間のプレゼンテーションを行った。プレゼン後には英語の先生から必ず一つ質問されることとなり、学会発表に近い形式で行われた。その後先生から発表に対してのコメントをもらい、簡易的に修了式が行われた。

4. 大学見学・ワイナリーツアー

カリフォルニア大学バークレー校見学では、校舎にある博物館のような施設や塔、お土産店などを回った。この時は休み期間で学生は少なかったが、後日訪れた際は新歓シーズンということもあり非常に多くの多種多様な学生でにぎわっていた。

ワイナリーツアーは3種のワインテイステイングをした。チーズやスナック、オーガニックジュースも頂くことができ、アルコールに弱くても少しは楽しむことができた。

5. ホームステイ

ホームステイ先はサンフランシスコに住む70代の女性お一人のお宅であり、私を含めた学生2人で滞在した。ここからLSI Berkeleyまでは電車を使い約1時間の位置である。気温は18℃～25℃であ

り、日本と比べ大変過ごしやすい気候であった。初日にはツインピークスというサンフランシスコを一望できる絶景スポットへ連れて行ってもらうなどして、緊張をほぐしてもらった。食事について、朝は果物やパン、オートミールなどを頂き、夜はラザニアやビーフストロガノフなど工夫を凝らした料理を頂くこともあった。この地域では降水量が極端に少なく水が貴重とのことで、シャワーなどでは節水を心掛けることとなり、現地の文化を知る良い機会となった。また、生活の一貫として草むしりやゴミ出し、お皿洗いなどを体験させていただくことでホストマザーとの交流を深めることができた。



図1 ホームステイ先での写真

6. 休日

休日はサンフランシスコ周辺の観光やヨセミテ国立公園へのツアー参加、野球観戦などをして過ごした。サンフランシスコ周辺の観光ではフィッシャー

マンズワーフやギラデリスクエアなど有名場所を中心に回った。ヨセミテ国立公園へはツアーで参加し、バスで片道約4時間かかった。その疲れがなくなるほどに景色がきれいな場所であった。野球観戦では、大谷翔平選手が近くのオークランド球場にて出場するというで観戦を決めた。



図2 ヨセミテ国立公園の景色

7. おわりに

今回 RUBeC 演習に参加し、英語のライティングやプレゼンテーション、海外の文化について学んだ。授業やホームステイ先では自身の英語の未熟さを痛感した。しかしながら現地での生活を含め、なんとかなったという経験を得た。この経験は今後の人生において、新しい第一歩を踏み出す勇気になるだろう。さいごに、RUBeC 演習にあたってお世話になった先生方、および関係者の方々へ心から感謝申し上げます。